

令和6年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生市立福生第一小学校 第3学年1組

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	5 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	95.5%	93.7%
		25 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	81.8%	85.1%
		26 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	95.5%	93.4%
	目標の達成	10 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	77.3%	66.3%
		15 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	100.0%	89.8%
	他者との協働	61 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	68.2%	75.3%
	学力と関係が深い質問	18 目標に向けて、普段からこつこつ学習している。	81.8%	80.6%
		27 国語の授業で、文章の書き方のよい例を参考にして書くことがある。	90.9%	82.8%
30 算数・数学の授業で、文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある。		59.1%	73.2%	
領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を4.8ポイント下回り、(指定された漢字の部分が何画目か選ぶ(右))設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を4.0ポイント下回り、(放送中の説明と合う内容を選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を10.0ポイント下回り、(場面の様子を読み取り、想定される内容を書く)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を6.6ポイント下回り、(場面の様子を読み取って選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を8.6ポイント下回り、(3位数-2位数の筆算をする(繰り下がりあり))設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を13.3ポイント下回り、(直角三角形を作図する)設問に課題がある。		
	測定	▲全国平均正答率を3.8ポイント下回り、(かさの単位換算をする)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を1.8ポイント下回り、(グラフの項目ごとの数の差で正しいものを選ぶ)設問に課題がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>・国語の漢字ドリルでは、丁寧に正しく漢字を書こうとする姿勢が見られる。しかし、「言葉・情報・言語分野」の領域の平均正答率は低く、漢字の定着は十分ではない。また、文章を書くことに苦手さを感じている児童が多い。助詞や特殊音節、漢字などの使い方を正しく理解していないと考えられる。</p> <p>・算数では、教師が投げかけた課題にすすんで取り組もうとする意識が高い。一方で、分かったことや考え方を発表したり、友達と共有したりすることに抵抗感がある児童が多い。場面を式にして答えを求める問題では、示された場面の様子を想像することが難しく、適切に立式することに課題がある。また、「長さ」や「重さ」の単位換算にも課題があり、前学年の学習内容を復習する必要がある。</p>		<p>・国語の新出漢字の学習の際は、丁寧に取り組む姿勢を褒めつつ、定着に向けて、音読みや訓読み、熟語の音読みや書き取りを中心に学習する。また、文章を書く学習では、組み合わせる言葉の選択肢や手本となる文章を準備し、苦手な児童は、手本を参考にしながら、書くことができるようにする。その際、既習した漢字は、活用するように促す。</p> <p>・算数では、自分の考えをもち、その考えに自信がもてるように、見通しがもちやすくスモールステップを意識した授業を行う。考えを伝える活動では、伝え方の話型を提示しながら行う。文章題での学習は、立式のポイントとなる言葉を探るようにその都度声を掛ける。単位変換の学習は、重さの学習に入る際に、毎時間復習をしていく。</p>		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.4%	(21人/22人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している児童	95.4%	(21人/22人中)